

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
社会福祉法人 伸康会 運動学習支援教室 ココノバ黒石校		2025年 2月 25日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	ワンフロアである為区切られたスペースを作る為パーティションを活用して仕切りを作り、クールダウンや静養ができるスペースの確保をしている。活動面においても運動時15名の児童が動くことに不自由がないよう広々と使えるよう用具の配置等工夫できている。	収納スペースや区切られた部屋がない為、両側に物置や面談室があるが配置の改善を行い、広いスペースの確保をしていきたい。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	職員の配置数は適切であるが、児童の支援の充足を考えるとスポットで追加できる職員が一名いるのが望ましい。	送迎で職員が手薄になる時間帯もある為、経由で工夫等していく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	来所してからの準備や手洗い等の導線がスムーズである為、ルーティンとして身に付きやすくしっかりと定着できている。掲示物で視覚支援を行い、わかりやすく構造化するように工夫し、衛生面への意識づけに繋げている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	・毎日清掃をし、気づいた部分があったら修正し、児童が活動しやすい空間になる様努めている。 ・毎日の清掃、消毒は丁寧に行っている。運動用具やおもちゃ等の点検も心がけている。	絵や工作等児童の製作した作品の展示等も積極的にしていきたいと思っている。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	・急な対応ができる様、個別の空間を1ヶ所設けている。 ・広げた空間であるが、パーティションの使用にて個別空間を常に用意しており、その他個別部屋も使用し対応できている。	音や声を完全に遮断できない為、ヘッドホンの導入なども検討する。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	会議やミーティングを通じて日々話し合いを行い、職員間のコミュニケーションを大切にし、共通理解のもと業務に反映させている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0		要望や相談、苦情等保護者が意見を言える機会の提供をしていきたい。（保護者の集い等）
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	毎日行うミーティングや個別支援会議にて情報共有を行い、改善点や必要な内容について話し合いを行い、日々の支援や療育に生かしている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1	・保護者以外の評価を聞けるようにアンケート用紙等を作成し、外部からの評価もいただける状況を作る。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	法人内の研修は毎月行い、研修から得られた知識や情報を共有し意識を高められるように努めている。外部からの研修案内も職員間で順番に受講できるようにしている。	ペアレントトレーニング等の研修に参加したことのない職員もいる為、今後積極的に受講できるようにしたい。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	関りの中で児童の思いを聞き取り、言葉の表出が難しい場合にもコミュニケーションを通じて把握できるように努め、ニーズや課題の理解に努め計画作成を行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	職員の主観になってしまわないよう、職員間で共通意識として持ち、固定した職員の感覚とならないよう多方面から見極められるよう、常に子どもの立場で捉えるように心がけている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	ひとり一人の計画に盛り込んだ5領域の支援内容に沿って療育、支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0	言動や態度等から背景を捉え、児童の心境について、または抱えている悩みや不安等を察することで、状況理解や本人の思いに寄り添っている。家族、学校、相談支援、併用先の事業所等からの情報も共有し連携に努めている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	ねらいや支援内容について具体的に計画に示していることで、日々の療育プログラムに反映し支援として提供できている。	移行支援については、移行先との具体的な調整や体制作りが不十分だった為、移行先の選択や調整に向けたスムーズな体制作りのために関係性を築いていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	児童のスキルや課題に沿って必要なプログラムを立案し、チームアプローチしている。	これまでやったことのないようなジャンルをプログラムに取り入れ挑戦していきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	集団運動においては月ごとのテーマを決め30分の運動プログラムを構成し提供している。マンネリ化させず、児童の好奇心を引き付けられるよう	ソーシャルスキルトレーニングを行う時間が平日はなかなか確保出来ていないため、運動やビジョントレーニングの他にも組み込んでいきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	集団活動に参加したくない児童に対して、個別のサポートで臨機応変に対応を行っている。	具体的にどのように個別活動を実施するか、支援や対応についての記載が出来ていないため、作成の際には内容に盛り込む。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	・支援開始前に必要であれば内容等を共有し、模擬授業も行うことで、支援に臨める体制が整っている。 ・それぞれの役割を共有し、連携してチームとしてアプローチできている。 ・リーダーの指示を理解し、各々が素早くフォローできる体制になっている。	イレギュラーな事が生じた際の動きや対応について整えることで連携を強化していきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	・全員が共通した情報を理解できる様互いに心がけている。	支援の着地点がどこなのか曖昧になってしまうことも
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	・記録は事実を忠実に記載することを心掛け、職員本人の感覚にならない様気を付けている。	日々の記録が業務の負担とならないよう、記載方法の工夫をし記録に導入してみる。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	・モニタリングを定期的に行い、保護者との話し合いを元に変更している。	ニーズの変化等に応じた担当者会議の開催についてはスピード感がこれまでなかった為早急に実施できるようにしていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	0	・基本活動を念頭に置いて支援をしている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	・療育を通じて、選択する機会を与えるようにプログラムやレクリエーション企画、作成をしている。	レクリエーションでは人数が多くなると個々の選択、決定ができないシチュエーションも生じてしまう為、改善していきたい。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	日頃より職員間で情報綴している為、職員が児童の状況を把握できているが、児童発達管理責任者と他職員が参加し、適した状況説明や理解に通じた者が共有できるように努めている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	・関係機関（学校や病院、併用している事業所等）等カンファレンス等、定期的に参加し必要な情報の共有に努めている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	保護者から基本的な行事や下校時間の情報等を頂くことになっているが、保護者が把握できていなかったり学校と保護者で情報に違いがある際には、学校に連絡し確認したり伺うことができています。	参観日や行事等の様子を拝見させてもらえるよう、各学校へのアプローチ、アピールを積極的に行い関係性を築いていきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2		相談支援員やご家族からの情報頼りな部分も多かったため、これまで行ってきた支援内容や成長過程等について情報提供頂き共有できるように努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	1		連携を図る為にも情報の共有やこれまでの過程、様子等も伝えられるように文書や電話等のやりとりを設けていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	1	市内の合同研修会へ招待していただき、事例検討を通じて他事業所の職員とグループワークができたり、事例に対する意見交換等もできている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	5		放課後児童クラブや児童館との交流はこれまで行うことが出来ていなかったため、児童館と併用している児童もいる為、地域のりんごクラブに働きかけを行い、運動レクリエーションや製作活動等の企画を行い交流に繋げていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	3	・参加する機会があれば参加してみる。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	日々の活動の様子や児童の言動等を保護者に伝え、保護者からも家庭の様子や些細な事でも情報としていただけるよう、コミュニケーションを大切にやり、児童の把握に努め連携できている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3		保護者が参加できるレクリエーションの企画を行ったり、保護者が子育てに関する悩みや困りごとに対して共有したり情報交換に繋がる交流の場をセッティングし、今後祝日を利用して行っていきたい。
保護者	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	契約時丁寧に説明行っている。法改正等似てないように変更生じた際には資料作成し直接説明行い対応している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0		保護者様が十分に理解、把握されていない状態なこともある為、わかりやすい説明、記載の工夫はしていく必要がある。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	保護者より相談を受けた際には、時間を作って個別に面談する機会を設けている。固執せず柔軟で多様なアドバイスができるよう、情報収集も行い、前向きな提案について考えながら対話に努めている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	4		・事業所に通われている児童のご家族たちと一緒に、制作活動やボランティア活動を行い、交流する機会を作り、気軽に集まって話が出来たり、子供同士の余暇時間の充実も図っていきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
への説明等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	職員間で共有し、解決策を話し合い、実行していることを目に見える形でアピール、発信している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0		法人で行っているSNSの案内を行っているが、実際に閲覧されている保護者が少ない為、掲示やちらし、口頭の宣伝を強化し興味を引いてもらえるように努める。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	保護者とは口頭でのやりとりだけでは、後にトラブルや連絡不足にも繋がる為必ず記載した状態でやりとりを行うことに徹している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5		・地域交流は全く行っていないので、地域との交流できる内容を企画する。 ・季節のイベントやチャリティーバザー等を行い、地域の方との交流機会を設けていきたい。 ・
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0		マニュアルについて説明はしているものの、配布はしておらず周知に繋がっていない為、掲示や配布等行う。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	想定を変え、不定の曜日や時間帯に訓練を実施するようにしている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	内服薬について、保護者様には受診の内容を毎回教えていただくようお願いしており、服薬内容、処方箋についても情報いただき確認できている。	てんかん発作等が生じた際の対応方としてマニュアルを職員間で統一するための研修や共有の機会を設けていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	アレルギーの診断結果や保護者からの情報のもと、扱いや提供については注意を払って提供している。	個人のファイルには情報としてまとめているが、一覧など作成し把握に徹していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	体調面や生活状況に関して常に保護者様とは情報共有し、児童の心身の安全を確保できるよう対応している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	事故や怪我等のヒヤリハットが生じた際には書面に残し、情報共有し再発防止のために改善点など話し合い実行している	運動の場面では児童同士の接触等で危ない場面も生じることがある為、事前にスペースや配置等の十分な確保ができるよう確認に念を入れていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	職員が年一回行われている虐待防止研修に参加し、情報を職員に共有し適切な対応に努めている。	職員同士で言葉や態度、距離感等について互いに確認し意識のすり合わせを行
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	身体拘束をする必要はない為計画へ記載していないが、今後やむを得ず身体拘束を行う必要が生じた際には計画に記載行う。	